

VetScan® products by
ABAXIS

*Vet***Com**

October / November 2006



株式会社 **セントラル** 科学貿易

ケーススタディ

T4テストのおかげでメッシュャは誤診から免れた

寄稿：タマラ J. ジンマーマン (Tamara J. Zimmerman)、DVM

ぜひ T4 スクリーニングを！

VetScan 血液検査システムは数分で結果が得られ、その場で治療やフォローアップテストを開始できます！



ハスキー・ミックスのメッシュャ (6歳、雌、卵巣摘出済み) は、セカンドオピニオンを求めて来院した。それまでかかっていた動物病院ではアトピーと診断されており、痒み止めのステロイド注射とヒドロコルチゾン軟膏が処方され、繰り返し治療を続けていたが効果は認められなかった。メッシュャの食餌は市販フードで、月に一度フィラリア予防薬を服用していた。フィラリア検査と血液化学検査は数ヶ月前に受けており、フィラリア検査は陰性で、血液検査の結果にも取り立てて異常は認められなかったが、メッシュャは、だんだんと弱ってきた。

身体測定では、体重 102.8 ポンドと肥満だった。TPR は正常、体温は 100.9° F だった。痒みは重度で、皮膚は色素沈着で黒くなっており、体臭が顕著に認められた。両耳に粘膜膿性耳炎が認められた。少量だが歯石沈着も認められた。両側性の広範囲な脱毛部位があり、飼主によれば昨年から広がってきたということだった。初期診断として、身体検査と既往歴から、アトピーの二次感染、甲状腺機能低下、食物アレルギー、外部寄生虫を鑑別診断リストとした。

皮膚スクレーピング検査では寄生虫は認められなかった。甲状腺機能低下症については、飼主の同意を得て院内 T4 テストを実施した。Abaxis 製 Vetscan T4 / Cholesterol ローターで総 T4 テストを行った。結果は：T4 : 0.0、Chol : 154 であった。



酵母もしくは細菌の二次感染に加え、アトピー性皮膚炎疑いがある甲状腺機能低下症である旨を飼主に伝えた。甲状腺疾患以外の可能性を排除するためには TSH を含む全甲状腺機能パネル検査が推奨されたが、前の動物病院で「一財産を使ってしまった」とのことで、飼主の同意が得られず実施できなかった。そこでレボチロキシシン 0.8mg (1日2回)、マラセブスプレー (必要に応じて)、シプロフロキサシン 750mg (1日2回) による治療を開始し、食餌は除去食を処方した。



その後数ヶ月の間、メッシュャは数度の身体検査を受けた。アトピー症状は消失しなかったが、飼主は目に見えて元気になってきたと報告し、被毛の状態も劇的に改善した。初来院から4ヵ月後、TPR 正常、両側性の酵母性耳炎、また頸部腹側に軽度の酵母菌感染が認められた。T4 値は依然として低く <0.5 であった。そこでレボチロキシンを 1.0mg (1日2回)に増量し、加えて局所耳炎薬を処方とシプロフロキサシン治療の反復も実施した。

2ヵ月後、T4 値は 2.7 となったが、依然として頸部周辺の脱毛や軽度の細菌感染が認められ、軽度の耳炎も残っていた。そこでレボチロキシン用量は変更せず、抗生物質治療を再開した。5ヵ月後、T4 値は 2.7 と安定していた。依然としてアレルギー／アトピー症状を発症することがあり、アトピーが完全に消失したとは言い難いが、この段階では管理も容易となっていた。現在も管理が続いており、甲状腺ホルモンの補充が行われている。

メッシュャの症例は、きわめて満足のいく進展をたどっている。当院には、これまでも、他院ではなかなか治らないというアレルギーの高齢犬（主に中～大型の犬種）が何頭か転院してきた。今回のメッシュャの症例を通じて、甲状腺機能低下症の治療は難しくないという理解が広がってほしい。また、甲状腺機能低下症と関連する皮膚症状は、アレルギー性皮膚炎と誤診する可能性がある。当院の地域で Abaxis の検査機器を備えているのは当院のみである。その当院では T4 スクリーニングが容易に実施でき、患畜の再来院まで待つことなく、T4 検査結果を利用してその場で疾患の絞り込みや鑑別診断が可能となっている。そして、スクリーニングテストの結果を基に、甲状腺または他の臓器の詳細な検査を提案することができる。さらに過去1年半の間に、犬の他、猫5頭についても甲状腺機能亢進症の診断に利用できた。

Dr. Tockman のコメント：

メッシュャの症例は、T4 ローターの有用性を明白に実証するものです。Dr. Zimmerman としては、TSH など他の甲状腺データも収集したかったでしょうが、メッシュャのクオリティ・オブ・ライフは改善され、病状も回復に向かっています。また、この症例は、T4 ローターの別の有用性も証明しています。薬量の決定は非常に重要な機能ですが、開業医の間で十分に認知されているとはいえません。その場で検査結果を再チェックすることで、用量増減することが容易に可能で、患畜と飼主に再来院の手間をかけることないというように、時間短縮と費用節減につながります。クライアントサービスの向上という面でも効果的です。

監訳 株式会社セントラル科学貿易

米国 ABAXIS 社 発行「Vetcom 2006.10月/11月号」より

※本内容は米国での症例であり、日本国内では異なる場合が御座います。